

ブラジルの社会運動リーダーと政党

関係性にもとづく類型化

近田亮平

はじめに

ブラジルでは主に1990年代から地方自治体レベルにおいて、社会運動やNGOなどが公共政策の策定や実施に参画する住民参加型政策が採用されるようになった。このような新たな潮流は、政治における民主主義の定着や討議をベースとするラテンアメリカ独自の発展(Avritzer[2002])、国民のより広範な政治参加を標榜する「労働者党」(PT)の台頭(Baiocchi ed.[2003]; 鈴木[2004])などの文脈で論じられてきた。また、このような参加型政策の一例といえる低所得層向け住宅政策「ムチラン」(Mutirão Autogerido¹⁾)に関する調査において、社会運動のリーダーが社会運動組織からは無報酬で多くの活動に従事し続ける一方、政党などから個人的に間接雇用される場合があることが観察された(近田[2005b])。

そこで本稿では、社会運動が政府とのパートナーシップ関係を模索するようになるなか、社会運動リーダーと政党が実際にいかなる関係を築いているのかを検証することを目的とする。その際、社会運動リーダーに対して筆者が行ったインタビュー調査をもとに、政党との関係性から、(1)政党連係型、(2)政党分離型、(3)自立志向型の3つのタイプにリーダーを類型化し考察を試みる。

本稿のインタビュー調査は、サンパウロ市に拠

点を置く「住宅運動連盟」(UMM)²⁾という社会運動組織のリーダーに対し筆者が行ったものである。実施時期は2008年9月⁽³⁾、対象者は州または全国レベルのUMM理事(coordenação executiva)経験者の計10人(男性3人、女性7人)⁽⁴⁾で、リーダーの年齢、性別、出生・居住地、家族構成、学歴、有給の職歴、社会運動の経歴や参加動機などについて質問を行った。なお本稿は、社会運動リーダーと政党の関係性の検証という目的から、本インタビュー調査結果の一部の解釈を試みたもので、その概要をまとめたのが次頁の表である。

I 政党連係型リーダー

第1の「政党連係型」リーダーは、自己の社会運動活動だけでなく生計基盤を特定の政党の活動や存続と深く連係させている点を特徴とする。本稿におけるこのタイプのリーダーは、その大半がインタビュー調査時まで長期間にわたりPTの議員補佐等として雇用されている。この議員補佐の職務にある者は、議員事務所にとどまって勤務する必要がないため、同職にあるリーダーは自らの収入源を確保した上で社会運動活動へ専念することができる一方、政党はリーダーたちの活動を通じ支持基盤を拡大することが可能となる。

【A：男性43歳】ブラジル北東部の北リオグラン

表 社会運動UMMリーダーの経歴の概要と類型化

	性別	年齢	主な職歴(有給)等の収入源	主な社会運動経歴(無給)等	
政党連係型	A	男	43	自営縫製業(SP移住後～) ムチラン責任者(2年間) PT市議会議員補佐(4年間) PT下院議員補佐(6年間: ～2008年)	SP北部住宅運動(カトリック教会の支援, 20年間), UMM総代表(4期連続 8年)。住宅運動中心, 政治活動。
	B	女	39	カトリック教会社会活動家(1993～1990年代後半) PT議員団補佐(2000～2003年) PT連邦政府都市省勤務(2003～2005年) 社会プロジェクト(1年半) PT上院議員補佐(2007年～)	カトリック系青少年活動(1983年～), 住宅運動(1988年～)。住宅運動中心, 政治活動(13歳でPT党员), 中流家庭出身。
	C	男	44	PT下院・市議会議員補佐(1989年～) ムチラン責任者(2年間)	SP西・北西部住宅運動(1986年～)。環境問題, PT党员(1980年代後半～), 市議会議員(PT)に立候補するが落選(2008年), Dの配偶者。
	D	女	40	PT下院議員補佐(複数年間) ムチラン責任者(2年間)	SP西・北西部住宅運動(16年間)。住宅・人権運動, 政治活動, Cの配偶者。
政党分離型	E	女	72	小売店勤務(25年間) 清掃員+年金(1987年～) ムチラン責任者(1992年～2年間)	SP市審議会委員(1998年～), GARMIC創設(2004年～)。全ての社会運動, 連邦政府から高齢者人権功労賞を受賞(2007年), 政党活動は積極的でない。
	F	女	40	工場労働者(1981年～) ムチラン責任者(1992年～2年間) カトリック教会社会活動家(2002～2005年) カトリック系NGO・CAICÓ職員(2006年～) ドイツのカトリック教会関連の奨学金	南東部司牧住宅運動(1992年～), カトリック教会の社会運動(1992年～)。住宅運動中心, 政治活動はボランティア。
自立志向型	G	女	48	家政婦(1982年～) PT市議会議員補佐(1994～1999年) FC総代表(1999年～)	SP中心部のコルチソ(1983年～)や土地占拠(1987年～)の運動, FC(1997年～)。さまざまな社会運動, 市議会議員(PT)に立候補するが落選。
	H	女	42	工場労働者(1980年～) ムチラン責任者(1990年～2年間) PT市議会議員補佐(1995～2007年) 短期政策コンサルタント(2008年) 国際NGO Ashokaの資金援助(2008年～3年間)	カトリック系青少年活動(1981年～), SP南東部住宅運動(1984年～)。住宅ほかジェンダーなどの運動, 政治活動。
	I	男	48	PT議員補佐(1989～1990年) カトリック教会社会活動家(1990～2002年) SP住宅公社(PT)職員(2001～2004年) UMM弁護士(2004年～) カトリック系人権NGO弁護士(2008年～)	SP南東部のカトリック教会の社会運動や住宅運動(1982年～)。住宅・人権運動, 政治活動, SP名誉市民として表彰される(2008年)。
	J	女	59	高校教師(1978～1997年) PT市議会議員補佐(1997～2001年) SP住宅公社(PT)職員(2001～2003年) 個人弁護士(2004～2007年) PT市議会議員補佐(2007年) 消費者団体PROCON職員(2008年～)	カトリック教会活動(1960年代), 民衆教育活動(1970年代), 民主化運動(1980年代前半), SP近郊Diadema市住宅運動(1980年代～)。貧困層の住宅や教育などの人権運動, 政治活動, 中流家庭出身。

(出所) インタビュー調査をもとに筆者作成。

(注) 下線部は政党(PT)と関連した職歴。SPはサンパウロ市。2009年9月に実施したJを含め、年齢や年数等は2008年9月時点のもの。

デ州ノーヴァ・クルス市(2009年人口3万6561人⁽⁵⁾)出身で、9歳の時に母親が既に移住していたサンパウロ市へ移り住み、18歳で結婚した。賃貸住宅に12年間居住した後、ムチランにより獲得した自宅で妻と子供4人と同居している。学歴は前期初等教育(4年間)修了。カトリック教会の影響が強いサンパウロ市北部の住宅運動リーダーを約20年間、UMM総代表を4期連続8年間務めている。社会運動は住宅問題のみだが、市民や官民合同の複数の団体で役職に就いている。有給の職業として当初は自営縫製業を営んでいたが、社会運動に傾倒後、社会運動活動に専念するため事務所勤務の必要がない市議会と下院の議員(PT)補佐を各々4年と6年務めている。また、最低賃金の2倍が支給されるムチランの責任者を2年間務めた。社会運動への参加動機については、「尊厳ある市民権(cidadania digna)獲得のために闘うべく、生まれ持った自らの血である。」と述べている。

【B:女性39歳】サンパウロ市東部の中流家庭出身で、ムチランの経験者ではなく、事実婚の夫と2人暮らしである。軍政下の1982年に行われた選挙で政治意識に目覚め13歳でPT党員となり、1983年からカトリック教会の青少年活動、カトリック大学(PUC)在学中の1988年から住宅運動に従事するようになった。大学卒業後の1990年から保育所や識字教育などの社会プロジェクトで短期就労し、1993~1990年代後半までカトリック教会の社会活動家(Agente Social da Pastoral)、2000~2003年までPT議員団補佐として雇用された。ルーラPT政権が誕生すると2003~2005年までブラジリアの連邦政府都市省で勤務し、その後同職を離れ1年半ほど社会プロジェクトで短期就労した後、2007年からPT上院議員の補佐を務める。また、「社会運動とは自らの人生であるとともに、新たな世界をつくり出す能力獲得や変革であるから社会

運動に参加している。」と述べている。

【C:男性44歳】南東部のサンパウロ州イラプルー市(2009年人口7870人)出身で、1975年にサンパウロ市へ移住した。ムチランで獲得した住宅に再婚した妻と子供2人と同居している(子供1人、前妻との子供2人が別居)。学歴は大学中退。カトリック教会の勢力が弱いサンパウロ市西部・北西部で1986年から住宅運動を始め、環境問題にも関心が強い。1980年代後半にPT党員となり、2008年サンパウロ市議会議員選挙にPTから立候補するが落選した。主な職歴は、1989年以降一貫してPTの下院や市議会議員の補佐として勤務している。社会運動への参加動機は、「我々の文化や血は異なる人種や民族の混淆であるが、そこから排除された人々が存在し、社会運動はこれらの人々の社会統合を実現すると信じるからである。」と述べている。

【D:女性40歳代】リーダーCの配偶者で、Cとともにサンパウロ市西部・北西部で住宅運動に従事し、同地区の理事を16年間務めている。住宅問題のほか人権運動や政治活動も行う。年数は不明であるが、PT下院議員補佐として長年勤務している。なお、CとDともに2年間、有給のムチラン責任者を務めた経験がある。

以上の政党連係型リーダーは、主な有給の職歴がPTの議員補佐または猟官制による政府機関勤務の者である。このタイプには、起源的に左派政党であり草の根民主主義を掲げるPTが、社会運動組織UMMへ直接的な資金援助を行う代わりに、雇用提供によってリーダーの生活を経済的に支え、彼らの社会運動や政治活動を可能にすることで、PTの支持基盤の拡大を試みるという相互依存関係が現われている。ただし、このような雇用を介した社会運動リーダーと政党の相互依存関係は、

PTがその構築により積極的であるが、同党以外にも「ブラジルの共産党」(PC do B)や急進左派政党「自由と社会主義党」(PSOL)、さらには主要野党の「ブラジル社会民主党」(PSDB)などでも見られることが、今回の聞き取り調査から判明している。

こうした政党連係型の社会運動リーダーと政党の関係は、「忠誠への見返りとして庇護や恩恵を期待する直接的な関係」(遅野井[2004: 95])と解することも可能であり、ラテンアメリカの伝統的な政治文化として広く知られるパトロン＝クライアント関係の一例ととらえることもできよう。しかし一方で両者の関係は、社会運動リーダーの政党へのパトロン＝クライアント的なものから、相互が自らの利益実現のため協力し合う関係へと変容しつつあるとも考えられる。

これを物語る端的な例として、2008年にPT上院議員補佐の職にあったリーダーBが、その後失業の身となったにもかかわらず、UMMの中心人物としてPTの協力を得ながら活発に活動を継続していることを挙げられる⁽⁶⁾。Bは「PTが提供する雇用を一目的にして、社会運動リーダーが活動しているとは思わないし、少なくとも私はそうではない。失業中にもかかわらず今ここでUMMの先頭に立っている私が、このことを証明している。」と述べており、このことは強固な個人的信条が社会運動へのより強い参加動機であることを言い表しているといえよう。また他のリーダーたちも、政党による雇用は実際面では議員個人との関係に左右されやすく、一時的かつ不安定であることも理由に挙げ、政党との関係におけるリーダー側の経済的動機に対し否定的な見解を示している⁽⁷⁾。

II 政党分離型リーダー

第2の「政党分離型」リーダーの特徴は、自己

の社会運動活動や生計基盤を政党から分離させている点である。同タイプのリーダーは政治理念に関して政党との共感重視するが、政党との経済的關係は一切持たずに社会運動活動を行っている。

【E：女性72歳】1960年22歳の時に夫とともにチリを出国し、アルゼンチンとウルグアイに短期滞在した後、サンパウロ市へ移住したチリ人である。子供4人(1人他界)、孫8人、曾孫2人に恵まれ、ムチランで獲得した自宅で夫と2人で暮らしている。児童・青少年、高齢者、保健医療、参加型予算などあらゆる社会問題の運動に全てボランティアで従事している。PT支持者ではあるが、政党活動に積極的ではない。1998年からサンパウロ市審議会委員、2004年から自ら創設した「大都市圏高齢者住宅グループ」(GARMIC: Grupo de Articulação de Moradia do Idoso da Capital)の代表を務め、2007年には連邦政府より「高齢者人権功労賞」(Garantia dos Direitos da Pessoa Idosa)を授与されている。職歴はブラジル移住後25年間小売店で勤務し、ムチランが実施された1990年代には2年にわたり責任者を務めた。また、1987年からは清掃員として1日2時間程度労働するとともに、年金を受給している。社会運動への参加動機は、「私は困難な境遇の人々を助けるために生まれてきたし、そうすることで自分自身も元気になれるからである。」と述べている。

【F：女性40歳】バイーア州カナヴィエイラ市(2009年人口3万7041人)出身で、9歳の時に両親らを地元に残し姉とともにサンパウロ市へ移住した。13歳で就労と一人暮らしを始め、結婚後に子供が1人生まれたが、離婚および一人娘の結婚と出産のため、2007年からムチランで建設した自宅に一人で暮らしている。学歴は初等教育中退であったが、社会運動へ参加する中で教育の必要性を

実感したため中断していた学校教育を再開し、ドイツのカトリック教会関連の奨学金を得て2008年には大学で法学を修めた。社会運動は1992年から従事しているカトリック系の「南東部司牧住宅運動」(Pastoral da Moradia da Região Sudeste)など、南東部の住宅問題の活動が中心である。PT支持者ではあるが、政治経済的な自立を重視するため党員ではなく、政治に関する活動は全てボランティアで行っている。

職歴は1981年から常に工場労働者として働き、2002年からはカトリック教会の社会活動家、2006年からカトリック教会自身が設立したNGO「コミュニティ・イニシアティブ支援センター」(CAICÓ: Centro de Apoio à Iniciativa Comunitário)職員として勤務している。また、リーダーE同様にムチランの責任者を務めている。なお、CAICÓは労働手帳のあるフォーマル・セクターとして6人程度を雇用し、近年減額傾向にあるが最低賃金を若干上回る給与額を支給している。社会運動への参加動機については、「自分自身が苦しい境遇にあったことや、そういう状況から救ってくれたカトリック教会の影響が強い。」と述べている。

この政党分離型に分類されるリーダーは、政治経済的な自立を確保すべく、特定政党の活動から一定の距離を置きながら社会運動活動を行っている者で、本調査においてはEとFの2人と少数派である。本調査が計量的な分析を目的としないため、同タイプのリーダーが社会運動全般においても少数派かどうかは不明であるが、社会運動と政党との関係性を考慮した場合、本調査の数値が実際のものからさほど乖離していないとの推測は可能であろう。特定政党への依存を回避しようとする政党分離型リーダーの姿勢は、政党連係型リーダーと政党との関係性、特に過去のそれがパトロ

ン＝クライアント的だったことの反面教師であると、EもFもインタビュー調査で述べている。

しかし、政党からの政治経済的な自立を重視する政党分離型リーダーの信念は、決して政治的な中立性や無党派を意味するものではない。実際と同タイプのリーダーはPTとつながりの強いUMMの中心人物であり、自己の政治理念とPTのそれが大きく乖離しない限りは、ボランティアとしてPTの政治活動への参加に積極的である。つまり、同タイプのリーダーは「政党」分離型ではあるが、決して「政治」分離型ではないのである。

Ⅲ 自立志向型リーダー

第3の「自立志向型」リーダーの特徴は、政党との関係を政党連係型からより自立したものに變更しようとする点である。このタイプのリーダーは過去にPTの議員補佐などとして雇用された経歴を持つが、近年は自らの生計基盤を政党以外に求めている。

【G：女性48歳】南部のパラナ州オルチゲイラ市(2009年人口2万5200人)出身で、1982年に単身でサンパウロ市へ移住した。1987年に獲得した自宅で、電気技師および年金受給者の夫と子供2人と同居している(前夫との子供3人と養子1人がいるが別居)。学歴は後期初等教育(4年間)未修了。1983年からサンパウロ市中心部のコルチツソ(cortiço)⁸⁾運動、1987年からカトリック教会の支援を受けた土地占拠運動に従事し、住宅問題を中心に環境、教育、人権などさまざまな運動に参加している。政治活動も活発で、サンパウロ市議会議員にPTから立候補した経験があるが落選している。

職歴は1982年から家政婦として働き、1994～1999年はPT市議会議員補佐として雇用された。

しかし、市議会議員から社会運動活動家として経済的に自立する重要性を諭されたこともあり、労働手帳なしのインフォーマル・セクターではあるが、1997年に自らの社会運動組織「コルチッソ・フォーラム」(Fórum dos Cortiços: FC)を創設し、1999年から有給で総代表を務めている。社会運動への参加動機は、「苦しい状況にある人々の問題を解決することが、この世に生を受けた私の使命だと思っているからである。」と述べている。

【H: 女性42歳】北東部のパイア州サンタクルス・カラブラリア市(2009年人口2万6250人)出身で、1980年に姉夫婦とサンパウロ市へ移住した。10代で結婚したが事実離婚し、ムチランで獲得した住宅に子供2人と同居している。ただし、UMMとは別の社会運動組織(CMP)の奨学金でキューバに留学中の子供1人と、別居している養子1人がいる。学歴はリーダーFと同様、中退していた初等教育を再開した後に大学まで進み、修士進学も考えている。社会運動には1981年からカトリック教会の青少年活動に参加し始め、1984年から住宅運動へ傾注するようになった。サンパウロ市南東部を中心とした住宅運動以外にもジェンダー問題に強い関心を持ち、近年はさまざまな社会運動に従事している。PTの政治活動にも熱心だが政治家志向はなく、選挙の際に推薦を受けるが市議会議員などへ立候補したことはない。

職歴はサンパウロ移住直後から工場で働き、1990年からムチランの責任者を務めた後、1995～2007年までPT市議会議員補佐として勤務した。その後、プロジェクト単位で雇用される短期の政策コンサルタントなどで生計を立てていたが、ほぼ失業状態となった。このような状況下、国際NGO(Ashoka)の社会活動家支援プログラムに合格し、2008年末から3年間にわたり資金援助を得られることが決定した。また、「社会運動は排除さ

れた人々の利益擁護や、貧困層に対する公共政策の構築を可能にすると信じているため、社会運動へ参加している。」と述べている。

【I: 男性48歳】サンパウロ州サーリス・オリヴェイラ市(2009年人口8021人)出身で、サンパウロ市内のアパートで妻と子供と同居している。同市南東部におけるカトリック教会の住宅改善活動に1982年から参加し、その後、人権運動などにも従事するようになった。職歴は1989～1990年までPT議員の補佐、1990～2002年までカトリック教会の社会活動家、2001～2004年はサンパウロ市の市長(PT)の招請により同市住宅公社(Cohab)で専門家として勤務した。その後2004年からUMM、2008年からはカトリック系人権NGO(Centro Gaspar Garcia de Direitos Humanos)でも弁護士を務めている。また、2008年にPTの市議会議員のイニシアティブによりサンパウロ市議会から名誉市民権を授与されている。なお、Iは貧困家庭の出身だがムチランは非経験者であり、主にカトリック教会の社会運動を中心となって推進する中で、社会経済的な上昇を遂げることに成功したとされる。

【J: 女性59歳】サンパウロ市の中流家庭出身で、ムチラン経験者ではなく、同市隣接のサンベルナルド・ド・カンポ市に息子と同居している(子供2人が海外在住)。離婚した夫は社会学者であるとともに労組リーダーだったため、軍政下に投獄された経験を持つ。学歴は大学で文学と法学を修めている。学校がカトリック系だったこともあり1960年代からカトリック教会の諸活動に参加するようになり、1970年代は民衆教育活動に献身、1980年代前半は民主化運動(Diretas Já)に傾注した。その頃からサンパウロ市に隣接するジアデマ市の住宅運動に従事し、貧困層の住宅や教育問題、人権運動、政治活動を活発に行った。

職歴は1978～1997年の長年にわたり高校の教師

(1987年の離婚後は英語塾の講師を兼任)を務めた後、1997～2001年までPT市議会議員補佐、2001～2003年はリーダーIと同様サンパウロ市住宅公社で専門家として勤務した。その後、2004～2007年まで個人弁護士として生計を立て、2007年の1年間は友人のPT市議会議員に頼まれ補佐を務めたが、人権擁護の観点から消費者問題に携わりたいと以前より考えていたため、2008年から政府の消費者団体(PROCON)で勤務している。社会運動の参加動機は、「不平等な社会をより公正で利己主義的でないものにするためであり、金銭は関係ない。」と述べている。

以上の自立志向型リーダーは、政党連係型と同様にPT議員補佐等として雇用された経験を持つが、近年は独自の社会運動活動を行ったり生計の政党への依存を回避したりして、自立を目指している者である。具体的にはGのFC創設、HのジェンダーやIとJの人権に関する運動などに現れており、彼らはこれら独自の活動をPTへの経済的依存を低下させながら行っている。つまり、同タイプのリーダーが模索する政党からの自立は、独自の社会運動を展開するための政治的な自立と、それを可能にする経済的自立の2つに大別できるといえよう。また、彼らの自立志向は個人的信条のさらなる追求や変容を意味し、このことが社会運動に新たな展開をもたらす一要因になると考えられる。ただし、自立志向型リーダーも政党分離型リーダーと同様に、自らの信条と政党の理念などが合致する場合には、「政治的」に自立する可能性は低い。

むすびにかえて

本稿では、社会運動組織UMMのリーダーに対

するインタビュー調査をもとに、社会運動リーダーを政党との関係性から政党連係型、政党分離型、自立志向型の3つのタイプに類型化した。そして、社会運動リーダーと政党の間には両者を利する経済的な結びつきがあること、それが少なからず両者間の依存または協力関係を維持構築していること、それとは別に両者間には強い政治的理念の紐帯があること、相互の関係の様態に大きな影響力を持つ個人の信条をリーダーが有していること、などを理解することができた。

制度的にも国民の意識の上でも政治的民主主義が定着傾向にあるブラジルでは、社会的に排除されてきた人々の政治参加が主に1990年代から推進されている。本稿で言及したムチランなどの住民参加型政策の実施、参加型予算や市民審議会の普及、「公益市民社会組織」(OSCIP)と呼ばれる政策参画NGOの法整備などがその具体例であり、強固な個人的信条を専ら活動への参加動機とする社会運動リーダーが、これらの施策の策定や実施に政府または政党と協働で携わるようになったことが、近年のブラジルの特徴の一つだといえよう。そしてまた、同国で広まりつつあるこの政治参加が、自己の能力や自立性の向上に対する意識覚醒を社会運動リーダー自身に促し、彼らと政党の関係性にとどまらず、社会運動や政党という組織自体、ひいては同国の政治文化に変化をもたらしている可能性も考えられよう。

注

- (1) ムチランに関する概要については、近田[2004]を参照。
- (2) UMM(União dos Movimentos de Moradia)の詳細については、近田[2005a]を参照。なおUMMとは、サンパウロ州レベルの組織の正式名である「サンパウロ住宅運動連盟」(UMMSP:

União dos Movimentos de Moradia da Grande São Paulo e Interior)の略称である。ただし、事務所はUMMの上部組織でブラジル全土において活動する「全国大衆住宅連盟」(UNMP: União Nacional por Moradia Popular)と同一で、主要メンバーがこれら2つの組織で役職を兼務していることが多いため、UMM(または単に「União」とは総じて2つの組織を意味するといえる。

- (3) Jのみ2009年9月実施。
- (4) 直接インタビューを行えなかったが、配偶者であるCから間接的に職歴等を聴取することができたD、および一部の質問事項にとどまってしまったIを含む。
- (5) IBGE[2009]以下、同様。
- (6) 2009年9月11日に実施したUMMリーダーに対する聞き取り調査。UMMはサンパウロ市審議会委員選挙への候補者決定集会を開催したが、同集會にPTの州下院議員と市議会議員が応援演説者として出席しており、UMMとPTの強固な相互協力関係を見ることができた。
- (7) 同上の現地調査。ただし同問題の実態究明には、事実婚の夫と同居するBのケースも含め、より精緻な調査研究が必要であろう。
- (8) 「コルチツソ」とはもともとポルトガル語で「蜂の巣」を意味する言葉で、主に市の中心部に位置する低所得者層の集合住宅のことをいう。主として賃貸用ではない古い大邸宅の一部を、又貸しなどの違法な賃貸契約により間貸しする 경우가多く、シャワーやトイレなどは共同で衛生面などにおいて居住条件は劣悪である。

参考文献

日本語文献

遅野井茂雄 [2004] 「政党 グローバル化時代の

危機と再生」(松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ政治と社会』新評論 91-110ページ)

近田亮平 [2004] 「サンパウロの都市貧困層向け住宅政策 『自主管理ムチラン』の住民組織」(佐藤寛編『援助と住民組織化』アジア経済研究所 109-138ページ)

[2005a] 「ブラジルの民衆運動 サンパウロの住宅運動団体を中心に」(『ラテンアメリカ・レポート』Vol.22, No.2 54-60ページ)

[2005b] 「途上国の貧困削減を可能としうるエンパワーメント フリードマンの〔ディス〕エンパワーメント・モデルとサンパウロの都市貧困層のエンパワーメント」(佐藤寛編『援助とエンパワーメント 能力開発と社会環境変化の組み合わせ』アジア経済研究所 53-83ページ)

鈴木茂 [2004] 「ブラジルの社会運動と民主化 労働者党(PT)の結成をめぐって」(松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ政治と社会』新評論 111-128ページ)

外国語文献

Avritzer, Leonardo [2002] *Democracy and the Public Space in Latin America*, Princeton; Oxford: Princeton University Press.

Baiocchi, Gianpaolo ed. [2003] *Radicals in Power: The Worker's Party(PT) and Experiments in Urban Democracy in Brazil*, London; New York: Zed Books Ltd.

IBGE [2009] *Estimativas de População*, IBGE (http://www.ibge.gov.br/home/estatistica/populacao/estimativa2009/POP2009_DOU.pdf 2009年9月10日アクセス)

(こなた・りょうへい/地域研究センター副主任研究員)